

様式 6

平成19年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 研究種目名 研究集会
2. 課題番号または共同利用コード 2007 - W-06
3. 研究課題(集会)名 和文：地殻変動連続観測記録の一元化と公開・利用  
英文：Distribution of continuous strain data on the inter-university network and studies using these resources
4. 研究期間 平成19年9月21日 ~ 平成19年9月22日
5. 研究場所 東京大学地震研究所 2号館第一会議室 及び 1号館セミナー室
6. 研究代表者所属・氏名 京都大学防災研究所・大谷文夫  
(地震研究所担当教員名) 加藤照之
7. 共同研究者・参加者名(別紙 添付)

共同研究者名	所属・職名	備考

8. 研究実績報告(成果)(別紙に作成)
10. 成果公表の方法(投稿予定の論文タイトル、雑誌名、学会講演、談話会、広報等)

電子媒体による報告書作成予定

- 備考
- ・研究成果を論文等で発表される場合、以下の形式の文章を謝辞等に記載して下さい。  
(英語)This study was supported by the Earthquake Research Institute cooperative research program.  
(和文)本研究は、東京大学地震研究所共同研究プログラムの援助を受けました。
  - ・特定共同研究Bについては、プロジェクト終了年度に冊子による報告書の提出が必要です。
  - ・研究成果について、本所の談話会、セミナー、「広報」での発表を歓迎いたします。

様式 6 別紙

8. 研究実績報告(成果)

主として歪計や傾斜計による地殻変動連続観測は、GPSなど宇宙技術が出現する前から観測が続けられ、数10年にわたる地殻歪の連続時系列データとして唯一のものである。近年、新視点からの現象としてSSE(スロースリップイベント)が発見され地震発生に密接に関連した出来事として研究対象になり、また、高精度時間軸で高サンプリング収録が実施されるようになった結果、ひずみデータへの新しいリアルタイムのアプローチが提

唱されている。今年度より、このデータが全国の大学間で一元化された流通体制をとり、データベース化されるので、これを機に、これらのデータの有効利用を目指して研究集会を開催した。

1-100 Hz で収録されるひずみ地震波形からは、地震発生時に P 波初動の時点で震源時間関数の推定が可能であることや、空間的に広がる観測網による一元化されたデータからは大地震の破壊の全体像・破壊進展状況の把握がリアルタイムで可能となり警報などにも有効なことが報告された。また長期にわたるひずみデータの集積からは様々な時間スケールの SSE が明らかになり、地震の震源領域の物理を解明する上で重要な情報を提供している。その他、地殻変動の連続観測に関する様々な話題が提供され、大学以外の機関からも現況の報告がなされた。

データベースの運用については、すでに運用を始めている北大からその内容が紹介され、独自のデータベースを構築している東濃地震科学研究所からも概要が報告された。

この研究集会により、地殻変動連続観測の重要性を再確認するとともに、大学のデータ一元化の次にくるものとして他機関のデータの一元化に対する大学の要望を発現するひとつの場になったものと考えている。また、優良な観測環境でありながら存続が危ぶまれている国立天文台江刺観測室に対しても地殻変動連続観測のコミュニティからその存続を希求する旨の要望を提出することも議論され、要望方法の目途がついた。

研究集会「地殻変動連続観測記録の一元化と公開・利用」プログラム

No.	所属	氏名	21日	懇親会 (予定)	22日 (予定)	備考
1	九州大学	松島 健	○	○	○	
2	京都大学	森井 亘	○	×	×	
3	〃	寺石真弘	○	○	○	
4	〃	大谷 文夫	○	○	○	
5	〃	川崎 正月	○	○	○	
6	名古屋大学	福田真人	○	×	○	
7	防災科研	志瀬 仁	○	○	○	
8	気象研究所	山本剛靖	○	×	○	
9	(株)20X研究所	植村 敏哉	○	○	×	
10	気象庁 精密地震観測室	露木 貴裕	○	×	○	
11	地震研	佐野 修	○	○	○	
12	京都大学	尾上謙介	○	○	○	
13	北海道大学	高橋 浩晃	○	○	○	
14	国文学研究	眞鍋 盛二	○	○	○	
15	地震研	岡向卓仁	○	×	×	
16	〃	松本 滋夫	○	○	○	
17	国立天文台	田村 友明	○	○	○	
18	地震予知総合研究振興会	津村建四郎	○	○	○	
19						
20						

21日 32人  
22日 30人

懇親会費(3000円)は加藤照之または新谷昌人までお支払いください。

東京大学地震研究所共同利用 2007-W-06  
 研究集会「地殻変動連続観測記録の一元化と公開・利用」プログラム

No.	所属	氏名	21日	懇親会 (予定)	22日 (予定)	備考
1	東濃地震科研	浅井康広	○	○	○	
2	名大 地震火山	伊藤 潤	○	○	○	
3	京大防災研	加藤 照之	○	○	○	
4	地震研	新谷昌人	○	○	○	
5	神戸学院大	大塚 成昭	○	○	○	
6	東濃地震研	石井 系太	○	○	○	
7	北大	山口 照寛	○	○	○	
8	慶大埋	中尾 茂	○	○	○	
9	宇宙線研	大橋 正健	○	×	○	
10	東濃地震科学研究所	大久保 慎人	○	○	○	
11	気象研究所	小林 昭夫	○	×	×	
12	加藤 照之 ← 地震研		○	○	○	
13	笠原 稔 ← 北大		○	○	○	
14	電気工学	地震研	○	×	×	
15	大久保 修平	〃	×	×	○	
16	位相工学の会	牛原 昭彦	△	×	○	
17	京大院理	福田 淳一	×	×	○	
18						
19						
20						

← 集計  
「研」

懇親会費(3000円)は加藤照之または新谷昌人までお支払いください。